

京都式少人数教育による授業づくり

京都府向日市立西ノ岡中学校長 盛永 俊弘

1 本校の生徒数と少人数学級

(1) 生徒数の推移

	生徒数
20年度	367 (3)
21年度	385 (9)
22年度	387 (10)
23年度	387 (11)

※ () 内は、特別支援学級生徒数

(2) 本年度の生徒数・学級数 (H23.5.1)

	生徒数	基準学級数	実学級数	実学級の規模
1年	119 (3)	3	4	38.7 → 29.0
2年	120 (1)	3	4	39.7 → 29.8
3年	148 (7)	4	4	35.3
	387 (11)			



2 京都式少人数教育による指導方法の工夫

	少人数授業(習熟度)			ティームティーチング			少人数学級		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
20年度	○	○	○						
21年度	○	○							○
22年度				○	○	○	○		○
23年度				○	○	○	○	○	
	<input type="checkbox"/> 2学級3展開(数・英) <input type="checkbox"/> 生徒の希望を加味した編成			<input type="checkbox"/> 数・英のTT指導 <input type="checkbox"/> 単元によって1学級2展開が可能 <input type="checkbox"/> 数・英以外の教員や学生ボランティアも活用					



3 効果と課題

(1) 生徒指導上の効果

- ア 不登校生徒数の変化
- イ 暴力行為発生件数の変化

(2) 学習指導上の効果

- ア 全国学力・学習状況調査／京都府学力診断テスト／標準学力検査（CRT）
- イ 定期テスト・単元テスト／各教科の評価・評定の分布
- ウ 希望進路の実現（全日制、定時制、通信制、就職、進路未定者の推移）

(3) 学級経営上の効果

- ア 生徒・保護者との懇談（子どもと向き合う時間、担任の指導力）
- イ 事務量の軽減

(4) 生徒アンケートの結果 ※少人数授業と少人数学級&チームティーチングの両方の授業を受けた生徒の意見（平成23年3月調査）

(5) 教員アンケートの結果 ※平成21年5月調査、平成22年5月調査

- ア 生徒の変化・・・学習意欲、授業への参加・集中度、学習規律、質問・発表者、教え合い、教員と生徒及び生徒間のコミュニケーション
- イ 指導方法の変化・・・机間指導、個に応じた指導、言語活動（記録、要約、説明、論述、討論、発表）
- ウ 教室使用方法の変化・・・空間のゆとり、机のレイアウト、掲示物

(6) 課題

- ア 学力向上（学習指導上の効果）の検証方法 ※因果関係の不明確さ
- イ 少人数学級実施に伴う教員の持ち時間の増加

4 少人数学級等を選択した理由

- (1) 生徒の実態と生徒数（学年規模）
- (2) 人的資源（スタッフ）
- (3) 自校の課題解決（学習規律の確保、生徒指導状況の改善）
- (4) 学力が低位な生徒への対応を含めた学力向上
- (5) 生徒と教員の意見（モチベーション）
- (6) 学級を基盤とした弾力的な学習集団編成の意義
- (7) 先行研究を参考・・・国立教育政策研究所・山森光陽氏の研究報告等
→学級規模と家庭学習・教師－生徒関係、学級数・学級規模がクラス替えによる生徒指導上・人間関係的問題の解決に与える影響等
- (8) 校長が柔軟に選択・判断できることの意義

5 質の高い学力の育成と少人数教育

- (1) 新学習指導要領の円滑な実施・・・思考力・判断力・表現力等の育成（言語活動の充実等）
- (2) 東日本大震災から考えること・・・正解はひとつではない（正解のない）変化の激しい社会での対応力、判断力、問題解決能力・・・